

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:令和4年度)

施設 の 名 称	宮城県障害者福祉センター
指 定 管 理 者 の 名 称	社会福祉法人宮城県障がい者福祉会
施 設 所 管 部 課 (室)	保健福祉部障害福祉課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘 要
平成21年4月 ~ 平成26年3月	指定管理者	社会福祉法人宮城県身体障害者福祉協会	
平成26年4月 ~ 平成31年3月	指定管理者	社会福祉法人宮城県身体障害者福祉協会	
平成31年4月 ~ 令和6年 3月	指定管理者	社会福祉法人宮城県障がい者福祉協会	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名 称	社会福祉法人宮城県障がい者福祉協会
	所在地	仙台市宮城野区幸町4丁目6-2
指 定 期 間	平成31年4月1日 ~ 令和6年3月31日 (5か年)	
募 集 方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施 設 の 名 称	宮城県障害者福祉センター	
所 在 地	仙台市宮城野区幸町4丁目6-2	
設 置 年 月	昭和58年4月	
根 拠 条 例 等	障害者福祉センター条例	
設 置 目 的	障害者に関する各種の相談に応じ、障害者に対し必要な便宜を供与するとともに、障害者の福祉に関する研修、ボランティア養成等を行い、障害者の総合的な福祉の増進を図るため。	
施 設 の 内 容	敷 地 面 積	23,102.57㎡
	構 造	鉄筋コンクリート造3階建
内 容	事務室、ロビー、展示室、相談室、図書閲覧室、機械室、管理人室、湯沸室、トイレ(男女、多目的)日常生活訓練室、宿泊室、談話室、食堂、配膳室、浴室、リネン室、社会適応訓練室、介助技術訓練室、会議室(大中小)、倉庫など	
開 館 (所) 日	日～土曜(火曜、祝日、年末年始除く)	
開 館 (所) 時 間	午前9時00分 ~ 午後9時00分	
指 定 管 理 者 が 行 う 業 務 の 範 囲	<ul style="list-style-type: none"> ・センターの設置目的に即した業務(施設の提供、相談及び研修など) ・施設全体の管理運営業務(運営推進協議会、利用者懇談会(利用者アンケート)) ・施設の使用許可申請の受付及び許可業務 ・機械設備の操作及び日常点検業務 ・施設全体の維持管理業務(清掃及び保守点検等) ・施設の防失等の届出受理及び報告義務 	
利 用 料 金 制	採 用 の 有 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	利用料金の名称	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和4年度) (A)	前 年 度 (令和3年度) (B)	評価対象年度 (令和4年度) (C)		
開館(所)日数	293 日	246 日	295 日	100.7%	119.9%
延べ利用者数	13,300 人	9,881 人	14,994 人	112.7%	151.7%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和4年度) (A)	前 年 度 (令和3年度) (B)	評価対象年度 (令和4年度) (C)		
各種事業参加者	1,200 人	886 人	1,361 人	113.4%	153.6%
自主事業参加者	100 人	21 人	121 人	121.0%	576.2%
その他施設利用者	12,000 人	8,974 人	13,512 人	112.6%	150.6%
	人	人	人	-	-
	人	人	人	-	-
合 計	13,300 人	9,881 人	14,994 人	112.7%	151.7%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円、%)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和4年度) (A)	前 年 度 (令和3年度) (B)	評価対象年度 (令和4年度) (C)		
県指定管理料	47,163	46,820	47,163	100.0%	100.7%
利用料金収入	407	57	83	20.4%	145.6%
その他	353	139	520	147.3%	374.1%
収入計 (a)	47,923	47,016	47,766	99.7%	101.6%

(2) 支出

人件費	31,927	32,038	29,384	92.0%	91.7%
施設管理費	6,986	8,109	9,868	141.3%	121.7%
事業運営費	8,514	5,880	7,664	90.0%	130.3%
その他	496	872	1,014	204.4%	116.3%
支出計 (b)	47,923	46,899	47,930	100.0%	102.2%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	117	-164	-	-140.2%
前期繰越収支差額	0	404	521	-	129.0%
次期繰越収支差額	0	521	357	-	68.5%

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて自主事業の収支実績を別掲すること。

自主事業収支実績

(単位:千円、%)

(1) 収入

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和4年度) (A)	前 年 度 (令和3年度) (B)	評価対象年度 (令和4年度) (C)		
寄付金	0	0	0	0.0%	0.0%
自主財源	100	100	100	100.0%	100.0%
収入計 (a)	100	100	100	100.0%	100.0%

(2) 支出

事業費	100	100	100	100.0%	100.0%
支出計 (b)	100	100	100	100.0%	100.0%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	0	0	0.0%	0.0%

6. 評価対象年度(令和4年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】		
				評価		評価	
①管理運営体制	<ul style="list-style-type: none"> ・正規職員6名(うち2名体育センター兼) ・非正規職員2名(うち1名体育センター兼務) 【研修会派遣実績9件(オンライン含)】 ・障害のある人を支援する防災研修会 ・アサーティブコミュニケーション研修会 ・仙台市旅館業衛生講習会・障害者虐待防止研修・福祉避難所等研修・障害者福祉センター等職員研修ほか3件 		<ul style="list-style-type: none"> ・共に少人数の体制での運営をおこなう体育センターとの連携協力で貸館業務や主催事業等を滞りなく進めました。 ・オンライン研修を含め多岐にわたる外部研修を活用し、職員の事業推進能力の向上や最新の福祉情勢の収集に努め運営への反映を図りました。 ・新型コロナ感染対策の徹底を図りながら、利用者に安心してご利用いただけるよう細やかなコミュニケーションを大切にした運営に努めました。 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な人員配置で、両センター職員との情報共有や連携等を密に行いながら、施設の管理運営を適切に実施している。 ・外部の研修に職員が参加することで、職員の資質向上にも積極的に取り組んでいる。 	A
人員体制	正規	6人	非正規	2人			
②施設・設備の維持管理業務の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和58年の開所であり、施設・設備等の随所に経年劣化が見られるので、事業計画に基づき、設備保守管理業者並びに器具類取り扱い業者と緊密に連絡を取り、保守点検や修繕等を実施しました。 ・宮城県施設整備事業が完了しました。 *非常灯改修工事 *電気設備改修(LED)工事 		<ul style="list-style-type: none"> ・職員及び利用者への節電・節水への意識を喚起し、経費節減を図り効率的な施設運営に努めました。 ・職員による日々の館内巡視や業者による定期点検、備蓄品の整備をおこない安全第一の施設管理に努めました。 ・老朽化による設備不良が相次ぎ、可能な限り修繕を実施しました。 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が進行する中でも、施設・設備の日常的な点検・整備をもれなく実施したことにより、適切な管理運営を実施している。 ・利用者の安全を第一に、必要な修繕等を実施し、指摘事項への対応も適切に取られている。 	A
③運営業務(ソフト事業等)の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・業務仕様書に基づき各種事業を実施しました。 ①相談事業 ②研修事業 ③日常生活支援事業 ④カルスポ(カルチャー・スポーツ)・交流事業 ⑤広報事業 ⑥施設の便宜提供 ⑦サービスの向上に係る取り組み ⑧環境配慮の取り組み 		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響を受けながらも、感染対策を講じ全事業を完了しました。職員研修会でのオンライン形式の導入や外部協力団体とのコラボ事業の開催、展開方法を工夫した大型行事等の開催は職員の資質向上につながりました。 ・多くの教室が定員を超える申し込みがありました。今後も充実したプログラムを提供できるように検討を進めます。 		S	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、万全の感染症対策を講じて計画した全事業を完了している。 ・オンラインや外部連携などにより、工夫しながら新たな取組を実施しており、さらなる障害者福祉の増進やインクルーシブ社会の実現に努めている。 	S
④自主事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・出前教室の開催 地域交流の活性化・余暇活動や障害理解の促進、福祉センター事業のPRの場として実施 (依頼件数33件延べ人数744名) ・ロビーパフォーマンス「スポットライトひろば」ロビー展示スペースをセンター利用団体や教室関係者の発表の場として提供し作品展を開催。(利用団体7件) 		<ul style="list-style-type: none"> ・県内各地からの要請に応じて、軽スポーツ・カルチャー・福祉啓発等の出前教室を開催しました。限られた職員数で出来る限りの要請に応え、社会資源としての役割の周知にも努めました。 ・ロビー展示は個性あふれる作品との出会いが好評で今後は各室の一部をギャラリー化し、発表の場を増設します。 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピック以降増加傾向にあるニーズに対して、限られた資源を有効活用しながら対応し、施設として求められる機能を十分発揮している。 	A
⑤利用者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進委員会の開催(年2回) ・利用者アンケートの実施(回収率71%) ・物品の無料貸し出し ・ロビーの開放、展示スペースの提供 ・定期利用団体への貸出ロッカーの提供 ・部屋の使用前後の清掃と消毒の徹底 ・利用促進のためのPRチラシの発行 ・玄関、トイレ入口への音声案内の設置 ・ホームページおよびTwitterの運営 		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者懇談会はコロナ禍のため開催せず「利用者アンケート」を実施し、利用者の満足度、職員の対応や事業内容は良好でした。 ・アンケート内でいただいたご要望にはできる限りすみやかに対応しました。 ・障がい状況により従来の電話やFAXでの予約や問い合わせが難しい場合はメールで対応しました。 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者目線に立った各種の工夫や柔軟な対応が見受けられ、限られた施設資源や人的資源を有効活用して利用者ニーズに答えている。 	A
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情解決委員会の設置(受付0件) ・虐待防止委員会の設置(受付0件) ・意見箱の設置(受付0件) 		<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から窓口対応や主催事業の開催時では、利用者との対話を重視し、気軽に職員へ、気になる点やご質問・ご意見等をお寄せいただけるような雰囲気づくりに努めました。 ・虐待防止の研修参加をとおり、相談機関として機能すべき役割を職員間での意識を強化し、日常の業務に活かせるよう努めました。 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者からの意見・要望に対する真摯な対応が徹底されており、そのような運営姿勢が苦情0件という結果に繋がっている。 	A
⑦安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場の交通整理・誘導の徹底 ・点字ブロック上の車両移動の徹底 ・避難訓練(年3回) ・消防設備点検(年2回) ・トイレ等呼出ブザー等の作動確認 ・AED、熱中症応急キットの設置・点検 ・新型コロナ、ノロウイルス等の感染対策 ・災害用非常食・救急用品の備蓄 ・防災対策研修参加・交通安全指導実施 		<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場内での人・車両の安全な動線確保や、点字ブロック上に駐車する車両には啓発のための声かけを行いました。 ・定期避難訓練の他に仙台市シェイクアウト訓練への参加や防災や福祉避難所関連の研修等を通じて最新情報の収集や防災意識の向上を図りました。 ・感染症対策では1日に3回以上の各部屋の消毒や換気の徹底を図りました。 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・施設特性上特に求められる安全確保措置にも十分努めているほか、福祉避難所として、設備点検や避難訓練等を適切に実施している。 ・熱中症対策や新型コロナウイルス感染症対策についても、継続して着実な取組が行われている。 	A
⑧県民の平等利用	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋の申込受付方法 ※申込の公平を保つため、利用の6カ月前の毎月1日からの受付とし、予約専用ダイヤルにて1団体(個人)1件までの予約を受付ける方法で実施。 		<ul style="list-style-type: none"> ・優先予約日においてはルール遵守に努め、公平性を徹底しました。 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・施設予約受付について、公平性を保つルールに基づく方法により、苦情もなく適切に運用されている。 	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑨個人情報の保護	<ul style="list-style-type: none"> 「宮城県障がい者福祉協会個人情報保護に対する基本方針」および「特定個人情報等取り扱い規程」に基づき適正な管理に努めました。 事業等で知り得た個人情報の取り扱いについては流出の防止や持ち出しの禁止、廃棄についても専門業者に依頼するなど徹底した管理をおこないました。 	<ul style="list-style-type: none"> 事故もなく適正に管理できました。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の保管及び破棄に関するルールが職員間で十分に共有されており、適切な情報管理がなされている。 	A
⑩利用実績	<ul style="list-style-type: none"> 開館日数:295日(3年度:246日) 利用人数:14,994名(3年度:9,881名) 利用件数:2,474件(3年度:1,917件) 2年度から実施してきた各室の利用人数の制限(定員の50%)を4年度後期から感染状況に留意しながら緩和しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 休館することなく運営ができ、コロナ対策を徹底した上で各室の利用人数の緩和をおこない、前年比で利用件数(28.95%増)、利用人数(51.72%増)となりました。要望に合わせて、会場や席数の調整を柔軟におこない、利用者のニーズに対応しました。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響が一部残る時期であったにもかかわらず、利用方法の工夫等、利用者増加に向けた取組を積極的に行った結果、事業計画を上回る利用実績となっている。 	S
⑪収支実績	上記「5.管理者運営収支実績」のとおり。	<ul style="list-style-type: none"> 光熱費や物価の高騰への対応として、事業運営に支障が出ない範囲での節約節減に取組みました。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 燃料費高騰や施設の経年劣化による修繕箇所が増に伴い、施設管理費が増加する中でも、事業運営や安全に支障の出ない範囲で経費節減に努め、健全な経営状況を維持している。 	A
⑫その他の取組	<ul style="list-style-type: none"> 虐待防止の取組み 地域の関係機関との連携 環境配慮の取組み 優先調達の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 研修受講や体制の在り方を法人と協議し虐待への職員の意識向上を図りました。 各教室では障がいの有無を問わず参加者の募集を図り地域の方と障がいのある方の交流や相互理解が深まりました。 節電・節水や省エネ、省資源対策等、利用者にもご協力をいただき実践しました。 優先調達では積極的に物品を調達し、昨年度実績を大きく上回りました。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 環境配慮行動として、節電やごみの分別、グリーン購入等、小まめな取組を積み重ねることが確認でき、施設利用者への協力呼びかけも適切に実施されている。 優先調達についても、積極的な取組が見られ、前年度を大きく上回る調達実績となっている。 	S
	総合評価	<ul style="list-style-type: none"> コロナ対策を徹底した上で貸館では定員数の緩和や調整を図り、安全面に配慮しました。また、展開方法を工夫した各事業の開催は、新規参加者層の開拓や新規利用者増につながりました。 電気料金の高騰には節電・節約を強化し老朽化による設備不良には利用に支障が出ぬよう修繕を進め安定した施設運営に努めました。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響が残る時期であったにもかかわらず、事業実施に向けた様々な工夫や新規の取組を実施しており、施設の設置目的に合致した適切な施設運営管理が行われている。 限られた人員の中でも、県の中核機能施設として各地域へのアウトリーチも積極的に行われており、今後も外部連携等の取組を期待したい。 	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	<ul style="list-style-type: none"> 開所から40年を迎える福祉センターは障がいのある方の社会参加、生涯学習の場の提供、芸術文化活動やインクルーシブな交流事業の促進に努めてきました。今後も社会参加を支援する社会資源としての発信や新たなネットワークづくりを進め、さらなる認知拡大をめざした啓発を図ります。今後ますます施設の老朽化、光熱費の高騰が懸念されますが、安全を第一とした施設整備の調整・修繕を視野に効率的な施設運営をめざします。 	<ul style="list-style-type: none"> 障害者福祉の増進のみならず、インクルーシブ社会の実現に向けて、誰でも参加できる事業やアウトリーチ活動を多数実施しており、その公益的な取組姿勢と実績は大いに評価でき、今後の更なる展開にも期待したい。 老朽化した施設・設備の修繕・更新については、今後も計画的に実施され、障害者福祉の増進に寄与する安全な施設として維持・管理されることを期待する。